

# みやざき九条の会ニュース No.13

2008年10月6日発行

〒880-0803 宮崎市旭1-3-20 くすの樹ビル  
宮崎中央法律事務所内  
TEL 0985 (24) 8820 FAX 0985 (22) 2937  
E-mail miyazaki9jou@yahoo.co.jp  
HP <http://welove9.org/>

## 九条を守る議員を一人でも多く国会へ

みやざき九条の会 代表世話人 藤原宏志

福田首相が辞任しました。安倍前首相と同様、政権投げだしといわれても仕方のない突然の辞任です。辞任の理由が「選挙に勝てる首相」を立てるためというのも困ったものです。経済が混迷し、内外の安全が脅かされている今日、一国の首相がなさねばならない課題は山積しています。国民の利益より党利を優先する発想にはただ呆れるばかりです。

福田首相が政権を投げ出すことになった原因は小泉内閣の「構造改革」路線の破綻にあります。小泉元首相が信奉した新自由主義経済論の破綻はアメリカのサブプライム・ローン問題とその収拾策で顕著に示されています。「市場経済原理に任せれば総て巧くいく」という新自由主義論は野放図な市場経済の行き着く先が奈落であることを如実に示しました。その結果は巨額の負債を国民に肩代わりさせるという、日本の土地バブルの崩壊と同じ形になりました。現在の不況は経済政策の根本的な見直し、小泉流「構造改革」路線からの脱却以外にありえません。

麻生新内閣は「高齢者医療制度」の見直しなど一

見新しそうな政策を並べていますが、麻生氏自身、安倍・福田政権の中核にあり現在の政策を推進してきた人です。現状を非とするなら、まず真摯な反省から始めるべきではないでしょうか？

経済政策論争が前面に出っていますが、平和と安全の問題がなくなったわけではありません。「テロ特措法」を延長するだけでなく、あわよくば期限のない恒久法として何時でも海外派兵ができる体制を作ろうと画策されています。これには、民主党の一部にも賛同者があり、総選挙で民主党政権ができたとしても決して安心できる状況ではありません。

みやざき九条の会は特定政党・候補者を支持・支援するものではありませんが、憲法九条を一項・二項とも堅持し、日本と世界の平和に貢献しようとする国会議員が一人でも多くなることを期待します。近く行われる総選挙は日本の命運を分ける大切な選挙です。私たちは憲法九条を守り、これを世界に広める政党と議員が飛躍的に前進することを望みます。

作詞：沢田研二

作曲：大野克夫

### 我が窮状



麗しの国 日本に生まれ 誇りも感じているが  
忌まわしい時代に 遡るのは賢明じゃない  
英霊の涙に変えて 授かった宝だ  
この窮状 救うために 声なき声よ集え  
我が窮状 守りきれたら  
残す未来 輝くよ

麗しの国 日本の核が 歯車を狂わせたんだ  
老いたるは 無力を気骨に変えて  
礎石となろうぜ

諦めは 取り返せない過ちを招くだけ  
この窮状 救いたいよ 声に集め歌おう  
我が窮状 守れないなら  
真の平和 ありえない

この窮状 救えるのは 静かに通る言葉  
わが窮状 守りきりたい  
許し合い 信じよう

沢田研二の「我が窮状」動画：阿修羅

<http://www.asyura2.com/07/kenpo2/msg/323.html>

## 4・17名古屋高裁判決と自衛隊

山田 朗教授の講演から

みやざき九条の会代表世話人 南 邦和

宮崎県弁護士会の主催する（憲法と平和を考える市民の集い）が、去る九月二十日宮日ホールで開催されました。永尾廣久日弁連憲法委員会副委員長（元福岡県弁護士会会長）による「日弁連」の護憲の取組み（鳥取宣言）の意義などについての経過報告に続いて、山田朗明治大学教授による「自衛隊のイラク派遣と憲法九条」の演題での講演が行われました。

山田教授は、「軍事拡張の近代史」や「護憲派のための軍事入門」などの著書を持ち、「箕輪訴訟」や今回の名古屋高裁での原告側証人として、その近現代史への深い学殖からの証言を行った。わが国の（軍事史）の第一人者でもあります。また、現在、日本歴史教育者協議会の会長として実践活動の中心にいる山田教授のお話は、非常にわかりやすく、具体性に富んだ内容で、改めて、自衛隊の内実を知ることができました。

4・17名古屋高裁の「違憲判決」の意義として「平和的生存権」の権利性を明確に認めて、自衛隊のイラクでの活動を憲法九条一項違反と判断されたことが

強調されました。また、現代の日本の軍需産業の実情とその歴大な「軍事利権」の実態が、きわめて具体的な数値で示されました。特に、日本の自衛隊が世界の軍事費ランキングの中で、アメリカ、イギリス、中国などと並んでメダルを競う實力を持つという事実には驚愕を覚えました。

兵力数では百万台の中国・インド・北朝鮮に水をあけられていますが（日本は約十五万人）艦船、航空機、戦車などの主要兵器による装備の近代化には目を見はるものがあり、国民の知らないところで、軍需産業に湯水のごとく国家予算がつき込まれています。憲法九条二項「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない……」が、いかに空文であるかを実感しました。

憲法改正を急ぐ改憲派の思惑やその理由付けは、この自衛隊の現実と憲法九条の「平和理念」との乖離を糊塗する企みに「軍事大国」の道を進んでいます。九条の会の責務は大きいと言わなければなりません。

### 今後の予定

- 2008年11月24日 九条の会全国交流会
- 2009年2月11日 「憲法と平和を考えるつどい」  
(他団体主催)
- 2009年3月予定 県内九条の会交流会



### ！意見広告報告！

本会は現在、意見広告運動を進めています。このたび、初の広告を八月三日付け宮日新聞に掲載しました。

今回は意見広告の形式ではなく、より安価なものとして、イベント広告にキヤッチフレーズを挿入する形式を取りました。

宣伝文句は、宮崎弁を用いた短く印象的なもので「平和憲法は変えんていつちやが！何で、変えんやいかん」としました。

宮日新聞は約二十三万二千部発行され、県内の約四十七%の世帯で購読されています。ですから、この規模で宣伝チラシを配布したのと同様の効果があったものと言えます。  
(木下)



## 第2回県内九条の会交流会に向けて

みやざき九条の会代表世話人 瀬口黎生

1、2008.4.26に行われた第一回交流会は、約60名の方々が参加され各会の活動状況が話され、有意義な交流が出来たことが確認された。

・これが続いて開かれた憲法セミナーの取り組みに一定の力を結集するエネルギーとなった。

・このような交流会を年に1,2回持てたらという希望が、それなりに出ていたと思う。

・ただ、「九条の会」の組織の原則や、それぞれの会の力量から、どこかの会がまとめて交流会を背負うという形にはならないことも、了解できたと考える。

・交流会への漠然とした期待は大きかったように思うが、それぞれが考えている事には違いがあり、それを深めるところまでは行っていない。それは継続する中で固まってくるものと思われる。

### 2、

・これをふまえて、第2回の交流会を来春の3月か4月を目途に計画したい。

・2回目からは、「みやざき九条の会」が独自に計画するのではなく、とりあえず、現在のそれぞれの会の力量を勘案して、もし了解が得られるなら、延岡、日向、宮崎、都城、小林、医療関係として、生協病院九条の会の各組織から代表に集ってもらって、仮称「交流会運営委員会」として、このネットワークの今後の運営について相談したい。

・もちろん、自主的に運営に関わり力を出したいところ

の「会」の参加は随時歓迎する。

・それでも「みやざき九条の会」が当面庶務的な役割をとらなければならないだろう。

事務局の負担を考慮して、主として藤原、瀬口が役割を取り、事務的には瀬口が出来るだけのことをする。

・当面の通信費などの運営費用は「みやざき九条の会」が負担する。

### 3、

・「交流会運営委員会」の開催は、10,11,12月のどこかで設定したいが、当面選挙の情勢がまだ流動的だから、これを見ながら連絡をとりあつて日取りは決めた

い。  
・交流会の内容は相談の上だが、単にそれぞれの会の報告に留まらず、

県全体での力を合わせた催し  
近い地域の共同の取り組み  
空白の地域への働きかけ  
など

話し合えるようなものにしたらと考えている。前回の反省から、交流会の性格を代表者の集まりか、一般会員のための集まりかをその都度明確に位置づけることが必要と思われる。そして、後者の集まりは大きな催しと組み合わせる。

### 各九条の会近況

こばやし九条の会

アッシュ ウールソンさんと

語る平和のつどい大盛況でした

・ 2008年8月12日 pm:6:30～

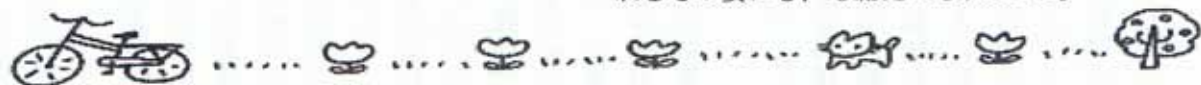
小林市社会福祉センター

チケット売り上げ枚数 大人161枚、学生19枚、合計180枚が求められました。

講演の方は大変好評で、柴野さんやアッシュ君の講演は、重要な役割をはたしました。

アッシュ君も、戦争の心の後遺症に苦しみながらも、イラク戦争反対を訴え続けて行くその姿は、大変感銘をあたえました。

柴野さんの、ハードなスケジュールをこなされて行かれるその姿にも、敬服させられました。





# 憲法セミナー 決意を新たに

7月12日 1600名の参加

講師 暉峻淑子、湯浅誠、大江健三郎

この度は、「第六回憲法セミナー」がこの宮崎の地で開催されるにあたり皆さまにはひとかたならぬご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

すでに、ご承知のとおり、去る7月12日宮崎市民文化ホールでのセミナー当日には予想を上回る1600人の聴衆の参加があり、「人間らしく生きる」のテーマでの、それぞれの分野での実績を持つ三人の講師による興味深く示唆に富むお話を聞くことが出来ました。

特に、ノーベル賞受賞作家として格別のネームバリューをもつ大江健三郎氏の来県はマスコミの話題となり、県内はもとより九州各県からの参加者への“磁力”ともなりました。

この機会に近県（九条の会）との交流の時間をえたことも、大きな収穫でした。

今回のセミナーにはボランティアを含む90数名のスタッフで取り組みましたが、警備への配慮を含めて、

炎天下での実に献身的な皆さまのご協力に、改めて感謝申し上げる次第です。

お陰をもちまして、〈九条の会〉によって全国的に展開しております「憲法セミナー」の宮崎での行事を大過なく終えることができました。このセミナーの成功は、この地における「憲法九条をかえさせない」という市民運動の一つの成果であり、新しい「宮崎の歴史」を書きかえた快挙であると確信しております。

この盛り上がりをさらに発展させ、今後に予想される自衛隊海外派兵「恒久法制定」の動きなどの政治的策謀に立ち向かって行きたいとの決意を新たにしております。

2008年 盛夏

「第六回憲法セミナー」みやざき実行委員会

代表 藤原宏志

(後日、各団体・個人へ発送しましたお礼状より抜粋)

## 西大門刑務所歴史館を訪ねて

矢野 勝敏



この夏参加した「南邦和さん」と行く韓国・近現代史の旅」の中で最も感銘を受けたのは、標記の歴史館であった。ここは日本の植民地支配の過酷な様子を余すところ無く再現している。日韓の歴史認識を考える上で欠かすことの出来ない施設である。

パンフの「沿革」によると、一九〇八年一〇月に京城監獄として新築、一九一二年九月に西大門監獄と名称変更、戦後一九四五年一月にソウル刑務所となり、一九九八年一月に現在の歴史館として開館とある。

全国の義兵が殺害され、あるいは囚われてこの監獄に収容されたのであろう。

保存されている七棟の獄舎は、まさに陰鬱で、日帝の拷問と弾圧に関する獄中生活の実状を展示した獄中生活室は、凄惨そのものである。女性獄舎の地下の独房は、韓国のジャンヌダルクといわれる柳寛順が拷問の末殉国した処といわれている。特に、いたたまれないのは、死刑場、屍体門（遺体を共同墓地に捨てるための秘密通路の門）である。そこで殉国した烈士たちの魂を偲ぶための追悼碑の前では、自ずと頭が垂れる。

広大な敷地の芝生の中に、赤レンガを敷き詰めた幅広い通路の跡が見られるが、かつての獄舎の通路だったとのこと、また、敷地を取り巻く赤レンガの塀、そこに聳える望楼、それらを險に描くと、過ぎし日、植民地時代に行つた日本の過酷な蛮行が想起され、いやがうえにも想念は尽きない。(完)